

A fool laughs when others laugh.



内海 善雄 ('65法)

帰るべき家がない

国際電気通信連合 (ITU) の事務総局長として、8年間のジュネーブ勤務を終えて、昨年始めに帰国した。8年間も、日本を留守にすると、日本が大きく変化していることに全く戸惑う。まず、出身の郵政省は、解体され、総務省のごく一部と、会社になっていた。その会社もまもなく4つに分裂した。35年間、全国津々浦々に郵政サービスを提供することを生きがいとしてきた身には、自分の帰るべき家がなくなったことが、真に淋しい。

杓子定規

しかし、もっと戸惑ったことは、郵便局や銀行、携帯電話会社の窓口など、あらゆるところで、杓子定規な取り扱いを受けたことである。区役所で住民登録をし、住民票を持って電話会社に行ったが、顔写真のない住民票ではだめだと言う。持っていた運転免許証は、古い住所で申請の住所と異なると言って受け付けてくれない。免許証の顔写真で本人確認、住民票で現住所確認という応用動作を受け入れないのである。

日本に帰れば、不自由なフランス語を

使うこともなく、日本語が通用する。やっと人並みになれると思いきや、日本の方がよほど不便なことになった。また、どこへ行っても、名簿を入手することが困難。旧来の知己とのコンタクトもとれない。

世界音痴

さすがに、新聞やテレビは、日本語でありがたいが、その内容が、あまりにも取るに足らないことを大げさに報道し、肝心の国際情勢は、アメリカ一辺倒で、世界の動きを報道しているとは思えない。日本は、日本だけで生きているのではない。世界は、アメリカだけで動かされているわけでもない。

自己卑下

「おまえは通信担当だったんだろう。日本の通信業界は全然だめなんだ。なぜだ？」と皆に聞かれた。確かに日本の電気通信産業界は世界で元気がない。それは、海外の人が欲しいようなものをつくらないからだ。しかし、技術は高い。日本は携帯電話やインターネットの普及は世界一だ。こんなすばらしいところはないのに、皆、駄目だと思っている。

通信産業以外の分野でも、日本人ほど優秀な国民はいないと思うが、皆、自信喪失。自信があつて褒められているのは、トヨタ自動車ぐらいであつたが、最近、トヨタも大変だ大変だと新聞に出るようになった。

横並びが行動規範

さらに横並びの発想には参つた。すべてのことが横並びで、ちょっと違うことをしようとするすると拒否される。スイスでは町村合併なんて聞いたことがない。どうやってアイデンティティを主張するかということで、新しい州ができたり、村が出来たりしている。また、今世界では、民族自決でいろんな国ができていゝる。アイデンティティを主張するという世界の流れがある時に、日本だけは、せつかくある伝統的なコミュニティをやめて町村合併ばかり、どこの町も全く同じような状況になっている。

歪んだナショナリズム

そういう中で変なナショナリズムが流行る。『国家の品格』という本がベストセラーになった。読んでみると、「英語なんか勉強しなくていい、日本語をやればいいんだ」と書いてある。それでどうやって国際社会に対応できるのか。極めて歪んだナショナリズムが起きて、その典型が中国、韓国に対する小泉内閣時代の状況だった。今は正常化した、アメリカでさえひれ伏して中国マーケットにアプローチしようとしている時に、何千年も中国からいろいろ勉強した日本が、中国の神経を逆なでするような態度を取つたのだ。

役人バッシング

あげくの果てが、すべて役人が悪いという役人バッシング。改正公務員法もどうやって運用するのか分からないが、日本全体が、政治の決めることと、役人が決めることを混同してしまっている。田んぼの中に舗装道路がいっぱいあつて、メダカが絶滅種になっているのは、誰がやったのだ。それは、役人じゃない。そのような不要なばら撒き開発予算をつけたのは、政治の問題だ。しかし、それをやった政治家や利権をもっている人たちは、すべて役人が悪いと言っている。そして、同調して煽るマスコミ。かつて無批判に戦争を煽つたマスコミとどこが違うのだろうか。

盲目的な原理主義の横行

このように、8年ぶりに帰国してみると、私には日本の社会は非常におかしい見えた。何がおかしいのかと考えてみると、それは、決められたこととか、マスコミが言っていることとか、多数の人が言っていることに対してだれも異論を挟むことをせずに、原理主義が横行してしまっているということだ。いろんなことに疑問を挟まずに、考えず、世の中のドミナントなことに対して盲目的に従つて、従わない奴はおかしいという。全てが「長いものには巻かれろ」ということではないか。

知恵の源泉は少数意見

いろんな知恵とかアイデアというのは、多数決の中にあるわけではなくて、例外的なことをやるから知恵である。そういう知恵は一切認めないという社会に

なっているように見える。

西洋には「a fool laughs when others laugh」（ほかの人が笑ってる時に笑うやつは馬鹿だ）という諺がある。日本では人が笑っている時に笑ってないと、あいつは変わり者だ、ちょっとおかしいと言われる。私が住んでいたスイスでも、どうやって自分が他人より目立つようになるか、違う考えを持っているか、その方が大事だ。日本の場合は全く逆で、どうやって人と同じようにしようかということばかり考えている。

日本人の長所

日本人の本当に強いところ、ほかの国民に比べていいところは、緻密で、組織

力があって、生産技術が高く、芸術的な感覚があること、さらに一番いいところは、超真面目なことだ。日本人ほど真面目な人はどこにもいない。そういういいところは一切言わずに、皆が駄目だ、駄目だと言っている。よほどマゾヒズムは、快感なのだろう。自信を持って、ほらでも吹ける日本人にならないと世界ではやっていけない。1億、総抗うつ剤が必要だ。

[東京銀杏会参与、
（財）通信・放送コンサルティング
協力（JTEC）理事長、
前国際電気通信連合（ITU）事務総局長、
トヨタ自動車顧問]

鎌倉散策— 5

留学生と交流する会 2008年10月4日

